2003年11月５日発行
江戸遺跡研究会会報　No.93
江戸遺跡研究会
http://www.ao.jpn.org/edo/

◇江戸遺跡研究会第92回例会は、2003年９月18日(土)午後６時30分より江戸東京博物館学習室に◇
◇て行われ、関口 慶久氏より、以下の内容が報告されました。◇

江戸周縁寺院の調査　－豊島区巣鴨遺跡・真性寺庫裏地区の発掘調査－

関口　慶久
（豊島区遺跡調査会）

【巣鴨遺跡真性寺庫裏地区概要】

所　在　地　東京都豊島区巣鴨３丁目21番21号（住居表示）
事　業　主　鳥居愼譽
敷地面積　2191.91㎡
建築面積　417.70㎡
調査面積　349.00㎡
調査期間　2002年７月１日～９月12日
調査担当者　関口慶久

はじめに

真性寺庫裏地区は、周知の埋蔵文化財包蔵地である巣鴨遺跡（豊島区№６）内に位置する。1990年、巣鴨遺跡の調査に着手してから10余年の歳月が経った。その間、一つ一つの発掘調査面積が矮小とはいえ、事例の蓄積が進み、巣鴨町が18世紀後半に町場として発展した歴史的過程が着実に明らかになりつつある。

翻って醫王山真性寺（真言宗豊山派）は、近世巣鴨町で唯一の寺院であり、その起源は古い（元和元年(1615）に六世祐遍が中興開山)。また、境内には江戸の境界施設として認識されている江戸六地蔵のひとつ、銅像地蔵菩薩像（都指定文化財）があることも、真性寺の特筆すべき性格であろう。このように真性寺は近世巣鴨町の成立に大きな役割を果たした可能性が高く、よって真性寺の存在は、その後の近世巣鴨町の歴史的展開を考える上で、重要なカギを握っているといってよいだろう。

しかしながらこれまでの巣鴨町の調査では、真性寺門前町に比定される、ひろまさあられ本舗地区の調査（未報告）があるものの、純粋に寺院地内での発掘調査がなされたことはなかった。その

ため、巣鴨の歴史的景観を復元しようとする際、真性寺の重要性を十分認識してはいたものの、具体的な歴史が明らかでないために、成果のなかに取り込めないことを余儀なくされていたのである。

本地区については、庫裏の改築計画が具体化したことに伴い、2002年２月27日に発掘届が事業者から豊島区教育委員会に対して提出されている。これに基づき区教委では試掘調査を2002年5月28日から実施し、近世の遺跡が良好に保存されていることが確認された。この結果を受けて、事業者側と区教委との間で協議を進め、調査団を結成して７月１日から２ヶ月余りの期間で発掘調査を行なうことで合意に達した。前述のような状況のなかで、今回実現した真性寺寺域内での発掘調査は、これまで実施されてきた発掘調査のなかでも特に意義深い調査事例のひとつになることが期待された。

1.調査の方法

建物建設範囲のほぼ全域に、カギ形の調査区を設定した。また今回の発掘調査では残土の搬出をしないため、土置き場の確保のために調査区を東側と西側に分け、切り返しによる調査を行なった。そして敷地北側の隣地境界線、すなわち旧中山道（現地蔵通り）の軸線を基準とし、調査区内に４ｍ×４ｍメッシュのグリッドを設定した。

2.基本層序

本地区では、５面の生活面が確認され、Ⅰ～Ⅴ期までの時期区分を設定できる。

Ⅰ期：ソフトローム層上。17世紀末～18世紀前半が主体。

Ⅱ期：暗灰褐色土を基調とする包含層上に構築されている。18世紀後半代か。

遺構密度がⅠ期やⅢ期に比べて著しく薄い。また調査区全面に確認できないことから、Ⅲ期のバリエーションという可能性もある。

Ⅲ期：黒褐色土を基調とする包含層上に構築されている。18世紀後半～近代に比定される。

本地区ではⅠ期～Ⅲ期までを遺構確認面とし、調査を行なっている。

Ⅳ期：暗褐色土を基調とする包含層上に構築されている。近代～現代に比定される。

Ⅴ期：現地表面。

3.発見された遺構

【Ⅰ期】

墓坑群：調査区南西隅に11基検出された。不整形の墓坑には人骨も残っており、人骨の出土状況や釘の有無などから早桶を使って埋葬したものと考える。遺構は複数切り合っており、新旧の判別は不明なものが多い。遺存状態は悪く、埋葬形態まではっきり判るものは僅かしかなかった。少なくとも横臥屈葬が２基、座葬が１基が確認されている。人骨と共に六道銭も出土している。

溝：溝は¬形で、西区中央辺りから始まり、南西に約4.5m伸びたところでほぼ垂直に曲がり、南

東方向へ伸びる。旧中仙道に平行である。この溝を境に南北では遺構展開の様相が変わる。調査区際にわずかにみえる柱穴群と、南側に展開する植栽痕群とを区画する溝であろうか。

植栽痕群：溝の南に展開する庭空間と考えられる。また、墓坑を囲うような植栽痕群もある。

柱穴群：調査区壁際にあり、溝とほぼ平行に展開する。建物の規模は不明であるが、柱間の長さは１間約180cmで、北西－南東に１間・北東－南西に５間確認されている。

【Ⅱ期】

坩堝埋設遺構：小型のピット状の掘りこみのなかに、坩堝が設置されていた。単独の出土であり、その周辺に鍛冶に関わる遺構・遺物は発見されていない。

【Ⅲ期】

近代礎石列：礎石の多くに墓標を使用している。古いもので延宝年間（1673～1680年）の墓標がある。

水琴窟：円形の土坑に、底に穴を開けた常滑産の大甕が伏せて埋設されていた。土坑の上にはコンクリートがのっており、その上に玉砂利が敷かれていた。

【Ⅳ期】

地鎮遺構：２基が検出されている。一つはピット状の掘りこみで、密教法具である橛が突きさしてあり、その上端に輪宝がのっていた。もう一つは攪乱により半分が壊されていたが、ピット状の掘りこみに橛を突きさした状態で検出された。輪宝は確認されなかった。

２つの遺構は前建物を建てた際の地鎮に使用したもので、同時期の遺構と考えられる。

4. 出土した遺物

遺物は、整理箱にして約50箱分出土している。現在はまだ水洗いが終了していないため、詳細は報告できないが、目立った遺物として、以下が挙げられる。

陶磁器・土器：17世紀末～の陶磁器が主体的である。なお試掘調査では17世紀前半の初期伊万里皿が１点出土している。

輪宝：直径約19cmの板状の銅製品である。橛も同じく板状で、片面には線刻が施されている。

人骨：全部で10体出土した。うち２体は幼児であった。

銭貨：包含層中やピットなどからも出土しているが、多くが墓坑に伴う六道銭である。

泥塔：墓に伴う副葬品と考えられる。多宝仏を陽刻したものか。

板碑：本地区では中世に遡る遺構は発見されなかったが､遺物としては板碑片が２点出土している。いずれも緑泥片岩製の武蔵型板碑で、うち１点は肉厚で、主尊の掘り込みも深く大きいことから、14世紀代の板碑の可能性もある。ただしどちらも近代面のゴミ穴や整地層からの出土であることから、真性寺にもともと造立されていたものか、他から持ち込まれたものか定かではない。

5.墓標調査

今回の調査では、発掘調査と併行して、境内墓地における墓標調査も行った。調査内容は、墓地にあるすべての墓標・台石について、法量や銘文・石材などを記録化するというもので、総基数は1499基に及んだ。

最古年銘は承応３年（1654）の板碑形墓標である。

おわりに

以上が、真性寺庫裏地区の発掘調査の概要である。

今回の調査では、近代～現代にかけての地鎮遺構、多量の礎石転用墓標や水琴窟、17世紀末から18世紀前半にかけての墓坑群やそれに伴う六道銭や泥塔、中世では板碑片など、時代を通じて、寺院に関わりの深い遺構・遺物の発見があったことが、まず特色として挙げられるだろう。これらは巣鴨遺跡内の町屋や武家地ではあまり見られないものばかりであり、信仰の場としての真性寺を彷彿とさせる具体的な成果であった。

さらに、これら宗教的色彩の濃い遺構・遺物に隠れがちではあるが、調査区を東西方向に走る溝や、連続する植栽痕、そして調査区脇で検出された柱穴群など、遺構の展開状況がある程度まとまって把握できたことは、今回の調査のおおきな成果であったと言ってよい。当初は『江戸名所図会』など絵画資料から得た情報より、近世より連綿とこの場所に庫裏が建てられていたのでは、という漠然とした思いがあった。しかし調査の結果、近世段階ではこの場所が溝を境に植栽痕が密集する空間であったことが判明したのである。

すなわちこの調査で判明したことは、近世にはこの地区の中心部には庫裏がなかった、という事実であった。この事実は、ひとり庫裏のみの問題ではなく、庫裏に近接していたであろう本堂などの主要伽藍施設・そして銅造地蔵菩薩像が、近世を通じてどの位置にあったのか、という問題に対しても、再考を促すものといえよう。

参考文献

関 優夏 2002 「豊島区巣鴨遺跡真性寺庫裏地区の地鎮遺構について」『東京の遺跡』№72
東京考古談話会

江戸遺跡研究会第17回大会のご案内

江戸遺跡研究会第17回大会「続 遺跡からみた江戸のゴミ」は、今大会も江戸東京博物館のご協力をいただき、下記の要領で行う予定でおります。今年は前回大会「遺跡からみた江戸のゴミ」において議論しました内容を積み上げる方向性で、さらに煮詰めたものにしたいと思います。

日時：2003年１月31日(土)・２月１日(日)
場所：江戸東京博物館会議室
発表者：小川望、毎田佳奈子、西山博章、阿部常樹、水本和美、内野正、堀内秀樹、寺島孝一
(発表順)

詳しくは、事前にご連絡いたします。

関 連 イ ベ ン ト

● 都内の特別展

～11月24日迄「しながわの大名下屋敷－お姫さまの別邸生活を探る」
品川区立品川歴史館　品川区大井6-11-1　03-3777-4060

～11月30日迄「伊藤伊兵衛と江戸園芸」
豊島区立郷土資料館　豊島区西池袋2-37-4　03-3980-2351

～11月30日迄「江戸の風景－江戸城築城から大江戸へ」
千代田区立四番町歴史民俗資料館　千代田区四番町1　03-3238-1139

～12月7日迄「四〇〇年前の板橋区とその周辺の世界」
板橋区立郷土資料館　板橋区赤塚5-35-25　03-5998-0081

～12月14日迄「大見世物　江戸・明治の庶民娯楽」
たばこと塩の博物館　渋谷区神南1-16-8　03-3476-2041

● 江戸開府400年記念文化財講座「江戸遺跡から学ぶ」東京都埋蔵文化財センター

11月 5日(水)：その１「復元された大名屋敷の変遷」福田敏一
11月12日(水)：その２「江戸の火事」江里口省三
11月19日(水)：その３「江戸の上水」小林 裕
11月26日(水)：その４「江戸のごみ（廃棄とリサイクル）」西山博章

●関西近世考古学研究会第１５回大会「近世瓦の最新研究－技法・編年・生産と流通－」

16世紀～19世紀における中世・近世瓦は近年の発掘調査によって多量に出土します。これまでは十分な分析がなされていません。今回は、これらの技法、編年、流通を体系的に整理し、問題提起をします。

日程：2003年12月6日(土)13:30～17:00　12月7日(日)10:00～15:30

会場：羽衣国際大学　４階４０１教室　大阪府堺市浜寺南町1-89-1　TEL0722-65-7000

南海本線羽衣駅（急行電車停車駅）下車東へ徒歩５分

資料代：3,000円（参加費、大会資料、研究紀要合冊、例会案内費含みます。）

懇親会：12月6日(土)17:30より　大学食堂にて　会費3,000円

図書交換会：当日直接会場へご持参下さい。事前搬入等は森村まで要連絡。(090-8884-3597)

申し込み：はがき又はFAXにて下記にお願いします。(当日直接参加もOKです。)

森村健一　大阪府和泉市伯太町1311-31　電話、FAX:0725-43-4553

プログラム：12月6日(土)

１．研究報告　小倉徹也氏「大坂」

２．研究報告　宮本佐知子氏「大坂－大坂出土の瓦（技法と編年）－」

３．研究報告　芦田淳一氏「大和」

４．研究報告　石尾和仁氏「徳島城下町における堺瓦・谷川瓦について」

５．講演　山崎信二氏（奈良文化財研究所）「近世瓦の技法と編年」

12月7日(日)

６．研究報告　杉本宏氏「京都－桟瓦の成立過程と京瓦師の動向－」

７．研究報告　小宮猛幸氏「滋賀」

８．研究報告　武内雅人氏「和歌山」

９．研究報告　嶋谷和彦氏「堺－堺瓦の流通－」

10．講演　今井修平氏（神戸女子大学）　「大坂近世瓦の流通体制」

●第10回 安芸のまほろばﾌｫｰﾗﾑ「近世宿場町の景観と流通 －西国街道の宿場町・西条四日市を掘る－」

全国的にも数少ない宿場町の発掘調査例である四日市の成果から、近年の宿場町について、その景観と流通を考える。

主催：東広島市教育委員会・財団法人東広島市教育文化振興事業団

日時：平成15年11月30日(日)10：00～16：35（受付は9：30から）

会場：東広島市文化センター3階アザレアホール（東広島市西条西本町28番6号）

講師：谷川章雄（早稲田大学）

川口宏海（大手前大学）

中山富広（広島大学）

堀内秀樹（東京大学）

石垣敏之（東広島市教育文化振興事業団）

定員：250名（先着順）

参加費：1人 2,000円（当日徴収、資料集・記録集込み）

申込方法：はがき又はFAXで、「第10回 安芸のまほろばフォーラム参加希望」と明記のうえ、住所・名前・電話番号を記入し、下記の住所へ申し込んでください。

申込締切日：平成15年11月22日(金)必着

申込み・問合せ先：〒739-8601 東広島市西条栄町8-29　東広島市教育委員会生涯学習部文化課
0824-20-0977（文化課直通）、FAX：0824-23-7551

●関西陶磁史研究会第三回研究集会　「軟質施釉陶器の成立と展開」

日時：2004年1月10日(土)・11日(日)

場所：大手前大学　A-28教室　　兵庫県西宮市御茶屋所町6-42

内容：1月10日(土)

1,軟質施釉陶器の諸問題　永田信一(京都市埋蔵文化財研究所)

2,畿内における軟質施釉陶器の出現　尾野善裕(京都国立博物館)

3,京都における軟質施釉陶器の展開　能芝　勉(京都市埋蔵文化財研究所)

4,大坂周辺における軟質施釉陶器の生産と流通　佐藤　隆(大阪歴史博物館)

1月11日(日)

5,軟質施釉陶の生産と窯構造　木立雅朗(立命館大学)

6,東日本における軟質施釉陶器の生産と流通　堀内秀樹(東京大学)

7,二つの黒茶碗 －黒楽と瀬戸黒－　伊藤嘉章(東京国立博物館)

8,畿内出土の華南三彩　稲垣正宏(国際航業)

9,乾山陶と軟質施釉陶器－京都大学構内遺跡出土品を中心に－　千葉　豊(京都大学)

10,文献に見る軟質施釉陶器の釉薬　入江佳代

11,明代の技術導入と展開－城郭瓦を中心に－　植山　茂(京都文化博物館)

参加：研究集会参加費　2,500円　(予定、資料代含む)

懇親会費　4,000円　(予定)

申し込み：参加日程、氏名、所属、住所、電話番号などお書きの上、封書、FAX、E-mailのいずれかで下記に申し込みください。

大手前大学史学研究所　〒662-0965　西宮市郷免町8-17

TEL 0798-32-5007　FAX 0798-32-5045　E-mail shigaku@otemae.ac.jp

〆切：12月10日

第93回例会のご案内

日　時：2003年11月20日（木）18:30～

内　容：小俣　悟氏　(台東区教育委員会)
「「入谷土器」について」(仮題)

会　場：江戸東京博物館　第２学習室
（大階段北側の通路を東に進み、駐車場の
脇を直進し、左側の夜間入口より入る）

交　通：ＪＲ総武線両国駅西口改札　徒歩３分
都営大江戸線両国駅(江戸東京博物館前）
A4出口　徒歩１分

問合せ：江戸東京博物館
03-3626-9916（小林）
東京大学埋蔵文化財調査室
03-5452-5103　（寺島･堀内･成瀬）
江戸遺跡研究会公式サイト
http://www.ao.jpn.org/edo/

【編集後記】大会の内容もようやく固まりました。難しいテーマではありますが、再度皆さんと考えてまいりたいと思います。ふるってご参加ください。